資料３

令和５年１１月２９日　第１回小牧市新たな学校づくり推進計画調査検討部会（抜粋）

小規模校の課題
＜人間関係面＞ ●　学校教育の魅力は色々な価値観や考えを持つ子どもがいることであるが、1 学級だけになれば、限られた人間関係の中で学校生活を送ることになる。 ⇒・新しい人間関係を築く困難さを味わうことができない。 ・学校は社会の縮図で、色んな人と関わり、練習する場である。 ・高校生活での多人数へのギャップを感じることになる。 社会に出た時のデメリットになるのでは。 ●　他者との関わりのなかで、チャレンジ経験を積み重ねていくことが、小牧の学び合いの根底であると思う。学校が、多くの子どもが集まる学びの場になり、学び合う学びをしていきたい。 子どもだけでなく、教員も楽しく仲間から学ぶことが大切で、様々な価値観から、同じ仲間より学ぶことが必要で、より多くの子どもがいればフィードバックでき、奥深いものになる。 ●　２学級の中学校を経験した際には、生徒たちは同じ人間関係で育ったため、卒業して高校に行ってから戸惑い、「人間関係が分からない」と生徒から相談があった。 ●　子どもの関係が固定化されやすい。親にとっても子どもにとっても関係がリスタート・改善されにくい。子ども間や保護者を含んでトラブルがあり遺恨が生じた際、単学級であれば同じクラスにならざるを得ない。 ●　単学級の小学校を経験した際には、保育園等が同じ子どもが集まり、小学校に通う前から人間関係が変わらないという状況だった。理解されている良さもあるが、そこから新たな人間関係を築いたり、再構築するのは難しいので、クラス替えがあると良いと思う。 ＜教育面＞ ●　色んな方と関わり、ものの考え方・見方を学ばないといけないが、人数が限定され、考え方の幅が狭くなることが危惧される。 ●　行事等で切磋琢磨するチャンスが減少する。

● 団体スポーツができなくなる。

● 部活・委員会等の多様な場が確保できなくなる恐れがある。

● 教員の数が少なくなるなかで、子どもにとって頼れる教員、相談しやすい教員が減ってくることが心配である。

＜学校運営面＞

● 教員の多様性が失われる。教員同士の学び合い・育成ができなくなる。

● 複数の教員がチームとなって対応が行いにくい。

● 年齢構成等のバランスの取れた教員配置が困難になる。経験者が少ないと、行事の運営等の学年経営が厳しい。教員は未経験による不安・負担が大きくなる。

● 病気休暇等により教員が休んだときの対応が難しくなる。また、産休・育休等で教員の補充が見つからないと運営が困難。

● 教員一人当たりの分掌が多くなり負担が増えるのではないか。
例えば、中学校で全学年１学級だと、３学年全てを教えることになり、３学年の準備が必要で、専門性の確保ができるかという問題がある。

● 子どもが少ないと、掃除などもやれるところが限られる。教員も少ないとチェックが出来なくなり、学校施設の安全面を確保することが難しくなる。

＜安全面＞

● 地域ごとの通学班による集団登校が難しくなる。遠いところまで一人で歩いて行かざるを得なくなると、安全面が不安である。

＜その他＞

● PTA 活動の保護者の負担が大きくなるおそれがある。そもそも、地域から役員を出してもらおうと思っても、地域に子どもが一人しかいない地域もある。役員の選任が難しくなる。